



中国で弁論大会全国大会を実施!? 今だからこそ盛り上げたい友好ムード

"政冷経熱"と呼ばれ、緊張がつづいている日中関係。が、今月号のインタビュー（20頁）に登場した王毅駐日中国大使は「学生同士の交流が日中の相互関係を深める」と話している。弁論大会などは、まさに代表的な交流活動だ。今の時期だからこそ、友好ムードを盛り上げる切り札として、こうした草の根活動に注目してみてもはどうだろうか。

6月6日（月）、天津外国語学院院長の修剛先生が来日し、弊社や北京放送とともに実行委員会を組織している「日中友好の声日本語中国語弁論大会」の打ち合わせが行われた。

本大会は、お互いの国の言葉を理解することで友好を深めようと89年に天津ではじまった。中国人は日本語で、日本人は中国語でスピーチする。その後、北京と天津で開催地を変えながら、今日まで16年間で14回開催してきた、日中間では最も歴史の長い弁論大会である。

今年の開催日は9月29日（木）。この日は、72年に日中国交正常化が実現した記念すべき日。「"政冷経熱"と呼ばれて緊張が続く日中関係ですが、こういうときこそ、弁論大会を通して両国の本当の姿を見直すべきではないでしょうか」と修剛先生は話した。

そうした声は日中両国のあらゆる方面からあがっており、実行委員会はそれを受けて、節目の15回大会に「第1回全中国グランドチャンピオン大会」の開催を予定している。現在、中国では約270の大学で日本語教育が実施されており、なかには弁論大会を実施している大学もある。そうした大会の優勝者を全国から招待し、グランドチャンピオンを決めるという大会だ。

日本からも、各大学や団体で実施している中国語弁論大会の優勝者を招待する予定。日本の弁論大会といえば、日本中国友好協会が「全日本中国語スピーチコンテスト」を開催しており、今年で23回目（11月を予定）を迎える。京都外国語大学が実施している「西日本学生中国語弁論大会」も18回（11月27日（日）開催）を数える老舗だ。

ところで、老舗中の老舗である「中国語弁論大会朝日新聞杯」（朝日新聞社主催）は、03年の37回大会を



来日した修剛先生（写真中央）を囲んで記念撮影

もって終了してしまっただけで、同大会では、「第11回日中友好の声日本語中国語弁論大会」に参加した神戸市外国語大学の学生が、第34回大会で優勝するという快挙も。「"中国語の普及"を目指して開催してきましたが、これだけ中国が力をつけ、中国語学習者も増えている今、ひとつの役目を終えたと判断し、終了いたしました」と事務局は話す。

終了する大会もあれば、新しく生まれる大会もある。日中交流研究所（段躍中所長）が開催する「日本人の中国語作文コンクール」はそのひとつ。これは、弁論でなく中国語作文を競うもの。「日中双方で違和感をも

っていますが、いっそのこといいことを文章にしてみたらどうでしょう。意識が高まり、相互理解が深まる提案が生まれるのではないのでしょうか」と段躍中所長は話す。こうした弁論大会、作文大会が、ギクシヤクした日中関係を解きほぐしてくれるかもしれない。そうあってほしいものだ。

「日本人の中国語作文コンクール」を開催している段躍中 日中交流研究所 所長



北京放送（中波1,044kHz／短波7.190MHz、9.855MHz）で聴く

『BAN★RAI やさしいビジネス中国語』

来月上旬に夏号発売!!（3カ月毎に発売）

- ビジネスに必須の例文と単語が満載
- やさしいからムリなく学習できる
- 定価2280円（テープ付）
- テキストのお求めは
 - ・東方書店（東京、03-3294-1001）
 - ・ジュンク堂書店（大阪、06-4799-1090）
 - ・東方通信社 BAN★RAI編集部まで

TEL03-3518-8844／FAX03-3518-8845

ryot@tohopress.com

http://www.tohopress.com

